

第 198 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 19 日（金） 13：30～14：47

場 所：浜田市役所本庁講堂 AB

出席者：岡田教育長 宇津委員 花田委員 杉野本委員 岡山委員

事務局 河上部長（欠席） 草刈課長 山口課長 鳥居室長 田中課長
濱見室長

書記：日ノ原係長 皆田主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊参事、猪木迫参事、龍河副参事、平岡副参事、永田副参事、岩崎分室長、細川分室長、馬場分室長、小松分室長は、欠席。

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画の策定について（資料 1）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

(1) 教育委員日誌の配布について

(2) その他

1 教育長報告

岡田教育長

本日は金本妙子前委員から代わり、新たに教育委員に就任された岡山令子委員が出席される初めての定例会である。様子が分からず、緊張の面持ちでおられるのではないかと思います。市長から辞令を交付され、任期については本日から令和 7 年 11 月 18 日までの 4 年間である。どうぞよろしく願います。浜田市の教育行政が良い方向に進んでいく様に、これからも教育委員方の知恵を結集させていただきたいと思っている。これからもどうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思う。それでは、岡山委員より一言ご挨拶をいただければと思う。

岡山委員

この度、教育委員に就任しました岡山令子と申します。私は 10 年ほど中学校で学校司書を務めていた。その関係もあり、このお話をいただいた時に、非常に良い機会であると受け止めさせていただき、引き受けた経緯がある。浜田市の教育行政に少しでも関

岡田教育長

わることができることに非常に嬉しい気持ちである。どうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

それでは教育長報告に入らせていただきたいと思います。皆さんもご存じの様に、2022年度末を以って教員免許の更新制の廃止を目指すことが決まった。教育関係者にとっては、私は喜ばしいニュースではないかと思っている。免許の更新研修は形式的で、また多忙化する教員の負担を増やしている。あるいは教員不足の要因にもなっているといった指摘もある。現在の制度を発展的に解消して、新たな研修制度の導入が検討されるようであるが、この研修は実務的で教員が主体的に参加できる様な実りのある研修制度であることを望んでいる。

また11月は、この秋は文化の薫る季節であった。これまで長年にわたって教育や文化の面で色々のご尽力いただいた方々への表彰が続き、嬉しい月であった。具体的には、浜田市文化財審議会の委員長でもある隅田正三さんが、地域文化功労者表彰、文部科学大臣表彰であるが、これを受賞された。それから前教育長である石本一夫さんが、地方教育行政功労者表彰、これもまた文部科学大臣表彰を受賞された。それから浜田市社会教育委員の会の会長でもある富金原完さんが、全国社会教育委員連合表彰を受賞された。それぞれの方々と面談をさせていただき、受賞を非常に喜ばれていた。教育委員会にもお礼の言葉をいただいている。

それでは、お手元の資料に基づいて報告させていただきたいと思います。

① 11月1日（月）、2日（火）浜田市臨時議会

浜田市議会の臨時会が開催され、正副議長、各種委員会の構成メンバーが決まった。議長が笹田卓議員、副議長が川神裕司議員である。

② 11月1日（月）浜田市総合振興計画審議会（講堂）

③ 11月5日（金）浜田市総合振興計画議員意見交換会（講堂）

審議会では後期基本計画の答申をまとめて、10日に市長に提出をされている。これを受けて、浜田市としての案を固めて、12月議会で議決を受ける流れである。教育委員会としてもこの計画の中で特に教育部門のアクションプランとして、浜田市教育振興計画を策定中であり、17日に浜田市教育振興計画審議会を開催して、委員方から色々なご意見をいただいている。

来年の3月までにまとめていきたいと考えている。

④ 11月7日（日）市民憲章推進大会（いわみーる体育館）

市民憲章推進のための活動に、長年取り組まれてきた個人9名と5団体が表彰を受けられた。その後、音楽を志してUターンをした若者3名のグループで管楽器と打楽器の記念演奏を行った。こうして音楽に関わりながら生活がしたいという熱い思いを持った若者たちが浜田にやって来ている。他のメンバーも含めて、今9名が浜田市に定住してくれている。彼らを応援したいと思っており、それから教育活動の中でも活躍していただける様な場を是非作っていききたいと考えている。

⑤ 11月9日（火）B&G 全国教育長会（東京：地域におけるSDGsへの取組）

B&G財団主催の全国教育長会に出席した。これは地域におけるSDGsの取組をテーマに、先進的に取り組まれている自治体の事例発表であるとか、財団の事業の説明があった。この中で「ESD」という言葉を聞かれたことがあるかもしれないが、「持続可能な開発のための教育」ということで、なかなかSDGsの取組を教育の中でどう取り組んでいくかということは裾野の広い分野だと思うが、こうした取組も紹介され、非常に参考になった。

⑥ 11月10日（水）島根県人権教育実践モデル園実践発表会（石見幼稚園）

この研究主題が、「仲間とつながりあう幼児の育成」ということが掲げられていた。小さな子どもたちがお互いの思いを出し合える集いの場を大人がどう仕掛けていくのか、そうした実践発表であった。この活動が幼児期の人権教育のヒントとなり、幼稚園や保育所、あるいは当日は小中学校の先生方も来られていたが、学校や家庭にも広がっていけばいいなと思った。幼児教育の大切さに改めて気付かされた機会になった。

⑦ 11月12日（金）HAMADA 教育魅力化コンソーシアム役員会（中央図書館）

本日は報告事項にあるため、細かな説明は避けたいと思うが、このコンソーシアムとは高校と地域人材をつなぐ活動ということで中間報告をしていただいたが、各県立高校の校長先生方に非常に評価されている。こうした組織が無ければ、なかなか地域と高校生をつなぐことが難しいというようなお声も聞

かせていただいた。

この事業の一環として、12月22日に浜田高等学校に地域住民160人を集めて、1年生160人と地域住民160人とトーク会を開かれる。また本日、ご案内もあると思うが、参加していただける方は是非参加していただければ嬉しく思う。

この日は県立大学のゼミ生も浜田駅周辺に自習交流スペースを作ってほしいと提案もあり、有意義な会になるのかなと思っている。

- ⑧ 11月14日（日）租税作品合同表彰式（絵ハガキ・作文・書写（いわみ文化振興センター））

これは税に関する絵ハガキや作文や書写の各部門で、小学生から高校生までの受賞者が表彰を受けた。

- ⑨ 11月15日（月）新型コロナウイルス感染症関連の浜田市支援策【第10弾】（案）に係る記者会見

教育委員会関係では、来年予定している成人式の出席希望者に事前に抗原検査キットを配布して、安全に成人式を迎えたいということで、この経費が167万円と、まちづくりセンター、あるいは文化スポーツ施設の会議室の、ウイルスの飛沫防止用パーテーションの購入費602万円を計上させていただいている。

- ⑩ 11月21日（日）人権・同和教育講演会（市総合福祉センター）

差別する側こそ「恥ずかしい」といったテーマで、解放社会学研究所の江嶋修作所長が講師をされる。聴講希望者は、本日までとなっているが、是非申し込みいただければと思っている。

最後であるが、実は本日が12月議会の一般質問の締め切り日であった。先ほど定例会の前に少し質問を見てみたが、7名か8名くらいの議員方が教育関係の質問を出しておられた。色々な質問をいただいているため、しっかり対応していきたいところである。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

宇津委員

教育長報告についての質問ではないが、先般、報道によると浜田市内の小中学校の給食にノドグロが提供されて、その模様が報

草刈課長

道されていた。この辺りは、大きくアピールしていいのではないかと思った。学校関係者、あるいは生徒たちの評判はどうだったのか掴んでいるか。

11月17日から順次、小中学校にノドグロの塩焼きや煮付けで提供している。ニュースではノドグロを初めて食べたといった衝撃の発言があつて正直驚いたが、これには沖合底曳網漁業の皆さんからの提供で非常に有難く思っている。メニューを決める際にも、関係者の方が集まって試食会を行ったり、調理では浜田水産高等学校からの協力をいただいたり、地域全体で地産地消や、特に浜田はノドグロといったところで、食育にも地産地消にもつなげていくということで、良い機会になったと思う。

ただ、これが一過性のものではなく、継続していかに食育で地域のものにつなげていくかということが今後の大きな課題かなと思っている。給食費の中で、なかなかノドグロを提供できる様な余裕がないため、産業経済部からこういったかたちで地域のものを提供いただければ、給食センターとしても調理の方法等で協力して、子どもたちへの食育に働きかけていきたいと考えている。子どもたちの評判は良かったと聞いており、色々な協力が地域全体でできたということにも評価できると、メインで主導された水産振興課からも聞いている。

岡田教育長

今、宇津委員から良い事業であると思ったということで、学校では食べる前にノドグロについての勉強をしたり、ただ食べるだけではなく、そういった教育に結びつけている。食べた後の子どもたちの感想の結果等も踏まえて、少しその後のPRも含めて考えていく必要があると思っている。色々なかたちで情報発信をしていきたいと思う。

宇津委員

私も浜田の良さを感じて、将来にわたって浜田を誇れる様な子どもを育てていかなければならない。私は小学校や中学校の時にノドグロを食べたということを地方から都会に出て行った時に、浜田はすごいと、ノドグロが給食に出るといったことを子どもたちがアピールしてくれると、非常に大きな効果が出てくる気がする。その辺りで今、大事な火を付ける時ではないかと思う。

岡田教育長
岡山委員

その他はよろしいか。

関連する内容であるが、地元の中学校の家庭科の授業でどんちっちアジを捌いて食べるといったことをしていた。なかなか家庭の中で子どもとどんちっちアジを調理する機会もないと思うた

岡田教育長	め、それは非常に有難かったと思った。教育と水産は、なかなか関われないようで関われるのだなとも思ったため、非常に良いことであると思った。
各委員	ありがとうございます。 その他はよろしいか。 特になし。

2 議題

(1) 第3次浜田市子ども読書活動推進計画の策定について（資料1）

草刈課長	この計画については現在、第2次まで出来上がっている。浜田市の子どもたちがあらゆる機会や場所を捉えて、主体的に読書に親しむ習慣を身に付けられる様な環境づくりを進めることを目指している。それについての必要な施策や効果的な実施を推進することが、この計画である。 計画の策定の背景としては、国が平成13年に子どもの読書活動の推進に関する法律を制定し、国の計画では現在は第4次が平成30年4月に策定されている。島根県についても、第4次「島根県子ども読書推進計画」を平成31年3月に策定している。浜田市としては、現在第2次の計画が令和3年度までである。したがって、令和4年度からの計画を現在作っていくところである。 第3次の基本的な考え方として記載があるが、計画期間としては令和4年度から8年度までを想定している。 計画の対象としては、国や県と同様に18歳以下を対象とする。 基本理念については、現在はまだ案の段階であるが、「夢を持ち郷土を愛する人を育みます」という教育振興計画の基本理念と同一とするものである。 基本目標については、「読書に親しみ、自ら学び、夢をもつ豊かな心を育む」ということで、第2次の基本目標を継続するということが現在の案である。 基本方針を4点挙げているが、第2次と同じ方針を記載している。これをベースに審議していく予定である。 検討委員会の設置についてはこれからであるが、設置要綱を3ページ目に載せており、第3条に委員の要件の記載がある。2ページ目には現在の検討委員の案を載せており、定数が10人である。第3条にもある様に、学校関係者、図書館関係者及び読書活動関係者で構成するというになっている。今各団体から推薦をい
------	---

	ただいている段階で、1 ページ目のスケジュールのところにもあるが、まだ日程が決まっていないが、11 月下旬のところでは第 1 回検討委員会の開催をしたいと考えており、これから検討に入るところである。先ほどの委員の委嘱期間については、第 1 回目のところから計画の完成までのところが委嘱期間となる。現在の予定では 3 回程度、検討委員会を開催し、この計画をまとめていきたいと思っている。計画が完成までのところで、教育委員会にも報告をしながらご意見をいただき、最終的な私たちの計画を作っていくことが今後の流れである。スケジュールの今後の流れについては、あくまでも案であり予定であるため、若干変更になるかもしれないが、今年度末までのところで計画策定の目途にして、行っていきたいと考えている。
岡田教育長	第 3 次の「浜田市子ども読書活動推進計画」を策定するにあたり、現在計画している委員方の構成で、要綱にある内容で進めていきたいと考えている。
草刈課長	第 1 回目の検討委員会が 11 月であり日にちが近いが、委員方にはどのような内諾を得られているのか。
岡田教育長	10 月 28 日に係長レベルが参加する庁内の会議を開き、各団体に委員を推薦いただきたいといったかたちで調整していただき、推薦していただいた委員方については、一応内諾は得られている。
各委員	この件について、委員方からご意見ご質問等はあるか。
岡田教育長	特になし。
各委員	それではこうした内容で、計画の策定に取り組むということで承認していただけるということによろしいか。
岡田教育長	全会一致で承認 ありがとうございました。
	参考までに、11 月 17 日の教育振興計画の審議会の中で、家読の推進を 1 つのテーマに掲げていて、参加されていた委員の方から家でなかなか本を読まないということで、学校での様子はどうでしょうかと聞かれていた。先生方がそれぞれ答えられたが、各クラスに文庫を持っていたり、文庫がないまでも学校の図書館を頻繁に活用して、家に借りて帰る本がとても多いが、家では読まないといった実態があるということで、これはどうしたらいいですかと実は話題になった。
	そんな現状等も踏まえながら、今度の計画がより実のあるものになればいいと思うが、私は個人的には、家で保護者の方が本を

	読んでいる姿を見せて、一緒に見る環境が近くにあったり、あるいはみんなで見ようといった運動を起こしていかないと学校からのアプローチだけではなかなか進まないかなという話を少しさせてもらった。この辺りについて、委員方からのコメントがあればいただきたい。どうやったら家読が広がっていくのか。
花田委員	やはり環境だと思う。家にゲーム機はあって、本のかけらもないような状況であれば本を読もうとは思わないし、親の姿に影響があると思う。それをどうしていくかである。
岡田教育長	おそらく、PTAの方とこの辺りをしっかり共有して、何らかの取組をさらに充実させる必要があると思う。
宇津委員	学校の先生方は、実際には子どもたちは学校で本を借りて帰っているが、実際にはなかなか本に目を通していない状況がある。どこにストップをさせる要因があるのか、何が阻害しているのか、そこを考えた時に、やはりメディア接触との関連もあるのかなと思う。お家の中の雰囲気もあると思うが、阻害している要因を除去する様な取組をしなければ、せっかく学校が良かれと思ってしていることが用をなしていない。
岡田教育長	本を家に持って帰ってはいるが、ゲームやテレビにあまりに夢中になりすぎて、読まずに返却ということがもしかしたらあるかもしれない。少し気になるところである。
杉野本委員	メディアについて宇津委員が言われた様に、メディア接触の時間が増えているということがある。小中連携教育のノーメディア週間の小中学校の取組で、全て読書につながるかと言えばそうではないかもしれないが、家族と一緒に過ごすことや話をする、その中に家読が入ってくる。家読とは、ただ個々で読むだけで終わりなのか、同じ様な内容の本を読んで感想を伝え合うところまでを目指しているのかというところもあるが、家読で得た感想を子どもも親も一つの話題にして、会話に広がっていくと学力も高まってくると思う。社会性や新聞を読むことで色々な知恵が入ってくることにつながる部分があると思っている。 ノーメディアの期間は頑張って取り組むが、期間が終わればほっとしてまたスマートフォンやゲームに戻ってしまうということがあると思う。取組はしているが、どこまで継続的なものになっているのか、習慣になれば良いがなかなか難しい。好きな子は本当に本が好きで、何度も読んでいると思う。
岡田教育長	このことについて、本日の議題に挙がっていて、たまたま昨日

各委員

特になし。

草刈課長

特になし。

各委員

目ノ原係長

岡田教育長

各委員

山口課長

HAMADA 教育魅力化コンソーシアム令和 3 年度 協働事業中間

報告（資料3）

資料3であるが、1枚ものとカラー刷りのものが2枚あり、3枚を使ってご説明をさせていただきたいと思う。

タイトルにもある HAMADA 教育魅力化コンソーシアムということで、今年の3月16日に設置され、実質今年度から高校を中心とし、地域と連携した活動をとおして人づくり、ひいては高校の魅力化に向けて魅力的な教育をやっていこうということでこういった組織を作り、学校教育課を中心に取組を進めている。本日はその取組内容、上期になるが、その状況をご説明させていただければと思う。

5月13日に市内の公立高校5校と特別支援学校2校を主に構成として、第1回の役員会を行い、そこで事業計画を決めて事業をスタートしている。その後、具体的には教頭先生を中心に定期的に会合を持ちながら、事業実施について協議しながら進めている。

まず、高校と事務的なところでは、中学生の将来の進路について、アンケート調査を9月、10月に実施した。それにあつてのアンケート内容の項目検討、そしてコンソーシアムの活動を情報発信するということで、フェイスブック等の活用についても協議している。地域との連携を図るためにも地域の方の人材をどうやって確保するのが非常に大きな課題であり、仕組みづくりはできるが、人財バンク的な構築を今年度に取り組む。最後に高校と地域との活動であるが、メディアや新聞等で活動の一部は見られるが、そういった取組がなかなか進路選択にあたって難しいということである。今月も放送があつたが、行政情報番組の浜っ子タイムズで5校の紹介をしようということで、上期に取組を進めている。具体的に何をしたのかを資料3で説明していく。

まず、1. 協働体制づくりということで、高校生の支援にあつて支援する地域や大人側もしっかり高校生に対する地域との連携が必要であると認識してもらうことを体制づくりとして掲げた。ただ、今年度まだ着手できていないため、今年度中には実施したいと思っている。具体的には、当初、浜田共育推進協議会と一緒にあって、高校に特化した部分について研修会をしようと思ったが、なかなか思うようにいかず、仕切り直して下期で取り組みたいと思っている。

2. コーディネート機能の強化ということで、具体的には人財バンクの構築と浜田の応援団との連携である。パンフレットを開いてご覧いただくと、いろいろなかたちでやっているが、浜田高等学校においては、地域課題解決型学習ということで、6月に地域の方々30名を学校にお招きして、高校2年生を対象に地域を研究するにあたって、まず地域の方と話そうといった取組を高校と一緒に連携して行った。実際に30名の地域の方々に来ていただいて、まずこういった取組を行っている。

次に浜田商業高等学校については、学校で浜商デパートや地域課題解決等、3部門を併せて高校で取り組まれている。そのうち、地域課題について研究している部門の学生からの発表をZoomを使って市内の関係団体、まちづくりセンター等色々なところにZoomで配信する取組のマッチングをさせていただいた。

次に浜田水産高等学校であるが、下段にノドグロが写っている。ノドグロの給食は、11月17日から浜田東中学校をスタートとして、今日は多くの学校で給食に出ている。出前授業や食育も併せてやっている。

この水産高校での取組については、船主会から話があって、高校と連携をしているということで、学校教育課を中心に水産高校とつなげて、今日に至っている。特に今回のノドグロ給食にあたっては、水産高校の食品流通科の生徒に4000匹以上の下処理を全てしていただいている。特に1匹150gの良いかたちのノドグロで、これを1匹1匹丁寧に鱗処理から内臓やエラを取り除き、洗って真空冷凍をいただいている。こういった下処理があって、児童生徒が食べているということで、非常に水産高校の生徒も後輩たちに食べてもらおうという強い思いを持って今回取り組んでおられる。学校教育課としても高校の支援の中でつなげることができた。冒頭に話した様に、こういった地域活動を行うにあたって、まだまだ人財的に偏りがあったり、私たちも知らない人財が多々いらっしゃると思うため、これから人財バンクづくりをしていきたいと思っている。

1枚紙のチラシをご覧いただき、浜高生と地域住民との「ちょこっ・トーク」を浜田高校が12月22日に実施する予定である。今回は浜田高校の1年生、これから地域課題について勉強しようというところで、現在1年生が160名いるが、要は1対1で話すことで地域の方の人数160名を目指して募集をしてい

る。今現在、70名くらい集まっているが、積極的に参加していただける方を集めているところである。是非、委員方もぜひ話してみたいと思われましたら応募していただければと思う。

人財バンクについては、特に専門性があるとかいうことを求めているわけではなく、まず高校生の話を聞いて、共感して取組に賛同しようという思いがあれば是非参加していただきたいと思っている。今、始まったばかりではあるが、特に高校が今なぜ人財バンクが必要かという、小中学校は地域連携本部があって、まちづくりセンターを中心に学校のふるさと教育等の活動を支援している。高校にはこういった母体がないため、人財バンクを作っていきたいと思っている。

続いて、3. キャリア教育の充実についてであるが、将来的に社会に出ていく部分で職業に就いている方々の考えや思いを学びたいということで、コーディネーターが間に入ってマッチングを行っている。実際に5回ほど実施し、生徒17名と社会人の方々13名をつないで取組を進めている。

それから個別の地域協働活動についても19回実施しており、市内の組織・企業19か所と連携して行った。リーフレットの1番最後のページをご覧ください、まるばらまちラボラトリーとも連携して岡山委員にも協力していただき、体験を通して将来を考える機会を作っているところである。

次に4. 情報発信であるが、やはりいくら活動を行っても、認知してもらわないと高校が何に取り組んでいるのか伝わらないため、手元にある「HAMADA 教育魅力化コンソーシアムだより」を年2回発行して、特に今から進路を考える中学生を中心に配布していく。それから年度末にはリーフレットを作成する。最後に行政情報番組「浜っ子タイムズ」であるが、初回が11月16日に放送される。再放送が11月23日（祝）にあるが、ここで学生たちが出演して、我が校のPRをする。この原稿も全て生徒が考えて、時間の枠に入る様に構成したものである。時間は短い、しっかり考えて構成したものであるため、是非ご覧いただければと思う。

5. 生徒募集であるが、市内3校の生徒募集の状況がなかなか定員を充足できるだけの定員を集められていない状況である。今年は合同学校説明会を実施しようということにしていたが、今年の8月、市内でもコロナが蔓延しており、各校それぞれ感

染症対策を施しながら、オープンスクールや個別の説明会をされたところである。次年度以降は考えていきたいと思っている。

裏面をご覧ください、6. 県立特別支援学校の取組支援ということで高校とは少し異なるが、市内にある県立の特別支援学校についても国府まちづくりセンターを中心に、以前から地域との関わりを事業で展開されている。ここの部分も当然、大切なことであるため、間に入って取組の支援をしている。

7. 市内県立高等学校への進学率向上に向けた取組であるが、以前、中学校長とのヒアリングで、9月下旬から10月の中旬にかけて中学2年生、3年生とその保護者に対してアンケート調査をしている。将来、どういう学校に進学するとか、色々な項目を設定してアンケートをしている。報告については、今、分析してまとめているところであるため、改めて報告をさせていただく。こういったアンケート結果を進学率向上の支援につなげるための検討材料として取組を進めている。

8. 高校生等と地域住民等との協働のまちづくりということで、やはり高校生もどうやったら地域活動に参加できるかといったきっかけづくりとして、例えばまちづくりセンターやNPO等から、こういった活動をするため、参加してみませんかといったマッチングシートを提案していただいて、それを学校の掲示板等に掲示する。マッチングシートで12件の提案があったが、実際に高校生が参加したものは4件、23名の生徒がボランティアであったり、地域活動に参加している。

最後に9. 事務局の運営の充実であるが、コンソーシアムの運営費については浜田市から補助をして、コンソーシアム運営の支援をしている。その中でアンケートの設計や今後のコンソーシアムの進め方について、金城出身の尾田洋平さんと今まで8回くらい協議をさせてもらいながら、運営について指導助言をいただいている。近隣の津和野町や益田市と語り場的な活動もされておられ、高校生が話せる場を浜田市も検討すべきかどうかも含めて、オンラインや訪問による現地視察を実施している。コンソーシアムの取組について、フェイスブックやLINEも含めて開設している。ワーキング部会も教頭先生とは別に色々なかたちでテーマごとに、各学校の先生、高校の先生と集まって進めている。

	最後に事務局には魅力化コーディネーターの大地本さんがいるが、この方が精力的に活動している。学校にも机を置いていただき、生徒が行きやすい環境を高校側も整えていただいており、事業が進んでいる状況である。まだ半年で始まったばかりであるが、少しずつ高校生が地域で活躍できる機会を作れている状況である。こういった活動が学習にも反映されて、今後色々なかたちで高校の魅力化につなげていきたいと思っている。
岡田教育長	教育の魅力化コンソーシアムの中間報告をしていただいた。この件について、委員方からご意見ご質問等はあるか。
花田委員	色々と動いていただいていると分かかって安心した。立ち上がり之余りにもギリギリというか遅かったのもその後が心配であったが。
	質問であるが、つなげるためのマッチングシートについてであるが、こういった事業をするから来てほしいとマッチングシートを出す側にはどの様に宣伝しているのか。どうやってそれを住民の側が把握するようになっているのか。
山口課長	花田委員がおっしゃるとおりだが、この事業は7月ごろからスタートした事業であるが、当初はまちづくりセンター、旧公民館を中心に情報を流す方法しかなかった。そのため、まちづくりセンターとつながりのあるNPO法人には情報は伝わっているかと思うが、今、ここの部分は課題として残っている。市内にも色々な活動をしている団体があるため、その辺りに情報発信できるように考えていきたいと思っている。現時点では具体的にはお答えできないが、当然課題として認識している。
花田委員	民間でも、是非、高校生に出会いたいというところはたくさんあるため、どうつなげるかというところを考えていただければと思う。
山口課長	承知した。
岡田教育長	その他はいかがか。
岡山委員	高校の魅力化を考える時に、この中に少しでも生徒数を確保したいという思いが含まれていることが分かったが、特に交通の便が段々と不便になっているところがある。私の地元でも、例えば浜田市内の浜田商業高校に通いたいと思ってもバスで行けないという問題がある。行きたくても選択肢に選べない子たちがいることを把握していただきたい。本当に生徒数を増や

山口課長

したいのであれば、高校生を送迎する便を確保することであったり、例えば、ちゃんとした寮を置くなり、最近の私たち界限の話では、どうやって子どもを学校に通わせるのかと大きな問題になっている。どうしてもスクールバスを持っている私立高校に通う流れが段々増えてきたため、是非、通学方法の確保についても同時に検討していただければ嬉しい。

岡田教育長

先ほど、アンケート調査を実施したと報告したが、実際にこの中で高校の進路を選択する上で条件を設問で設けている。当然、交通手段についても聞いている。現在、集計中ではあるが、やはり旧那賀郡の中学生の保護者や生徒も含めて、その点は選択肢の中で非常に重要な要素であると回答があると聞いている。問題は今後、県立学校が設置者として本来するべきだと思う。私立はしている。その部分が地元の浜田市としてできるかどうかというところは、今後の課題であると思っている。

各委員

今すぐに何らかの打開策がとれるかということは別として、大きな要素であるということでアンケート調査をして中学生、あるいは保護者の方に意識調査をしているため、そうしたことを分析してつなげていければと思っている。

その他はよろしいか。
特になし。

鳥居室長

第7回（11月）市校長会資料（資料4）

資料4の1番、全国学力・学習状況調査の浜田市結果を踏まえた授業改善研修会について、前回の定例会でパワーポイントを印刷したものを示させていただいたが、それに基づいて研修を行う。資料の中で、特に課題があった算数の部分を資料Aとして付けているが、これについては説明しているものであるため、本日は省略させていただく。これを校長会資料に載せたのは、算数・数学だけの問題ではないということを校長先生の口からちゃんと先生方に周知いただきたいためである。研修の途中で算数の分析がでてくるが、自分には関係ないという視点でぼやっと見ないでほしいとちゃんと伝えてほしいと強調するために、このシートを出して説明をしている。

資料の中段に四角で囲ってあるところの下に文言で「子どもの声でつくる授業」の柱の一つとして取り組んでいただいている「考えを深め、広げる営み」をさらに充実させていくために

必要なことだと記載している。

2 番の授業における対話についてということで資料を出しているが、校長先生方も授業を見る時には先ほどの視点で見たい。そして先生方にも、そういう授業になる様にしっかり声かけをしてくださいと一つ衝撃的な資料 B を用意した。

資料 B、週刊教育資料に掲載されていたもので、たまたま目に留まっていたものを取りためていた資料である。左側の中段に、「対話」できず寂しいという大学生の相談が載っていた。その真下辺りに立教大学の教授が、「教室には議論と雑談と対話がある」と言い、「多くは雑談で終わっている」とのことである。雑談とは、自分の考えを伝え合っているだけの状態で、他の考えを基に自分の考えを広げ深めることが「対話」であるが、そこまで至っていない場合が多いと指摘している。そのとおりだと思う。また後ほど読んでいただきたと思うが、この大学生は授業中に自分の考えを話す、相手の反応がないことで、ずっと寂しい思いをしてきた。自分は意見を言うが、相手はうなずくだけであったり、「いいね」と言われるだけで非常に寂しかったとゼミの先生に語っているということから記事になっている。教室でもそのような状況が起こっていないかと校長先生方に問いかけさせていただいた。

レジュメに戻っていただき、1 番下の四角で囲ってある部分であるが、これは協調学習の研修会を 8 月に実施し、その中で東京大学の CoREF がパワーポイントで説明していた資料にあった文言である。非常に面白い子どもの反応だが、でもありがたい反応を載せている。1 番から見ると「答えは？」と聞くと「ええーわからない」と答え、「適当でいいから一回書いてみよう」と言うと「 140×10 は 140」と書いて、それを見た子が「ほんと？違うよ」と言い、そしたら「140 で合ってると思うけど」と確信を持って書いているから、そう言っている。ただ、相手の子は何て言ったかという「まあいいや、書いておけばいい」であった。白水先生は元々東京大学 CoREF におられた先生であるが、今は国立教育政策研究所におられる。白水先生が実際に授業場面に出くわして、こういった記事を起しておられ、実際に学校でおこりがちな状況である。我々が授業を見に行っているが、ペアで話し合ったり、グループで話し合ったり、よく話し合いをしている。「対話」が本当に起こっている

様に見える。だが、こういう状況が絶対に起こっている。元に戻るが、「え？ほんとにそうなの？」「なぜ？」といったことが頻繁に飛び交うような授業を先生方が心がけていかなければ、問題は解決していかないということでの研修である。それを補足するために、校長先生方にもこの資料をお示ししたところである。本当に意味のある話し合い、しっかり対話ができる授業をこれからも目指したいと思う。そのために約 40 分間であるが、録音したパワーポイントを各学校に配って研修をしてもらう予定である。既に研修を実施した学校も、これからの学校もある。訪問指導も終わりかけてきたが、来年も引き続き力を入れて、学校への指導助言に関わっていきたいと思っている。授業づくりのところからもそうだが、当日も関わっていきたいと思っている。

岡田教育長

「子どもの声でつくる授業」と言いながら、実際に子どもたちの発言が言葉としては出ているが、でもその質が対話になっているかということであった。今、協調学習が本当に大事であるということで、教育委員会も協調学習を学力向上の大きな柱として、指導主事の先生方と一緒に学校に入っていき、課題を共有するということを進めている。本日、説明があった資料も見いただき、教育委員会としての方向感も共有していただければ嬉しいと思っている。

資料 4 について、ご質問等はあるか。

杉野本委員

2 番の授業における対話についてだが、子どもたちの話の中で、「まあいいや」とか「書いておけばいい」という様な反応が、実際に自分の学校の子どもたちもあると校長先生方も捉えているのか、どうだろうといった感じなのか、その辺りで校長先生方に説明された時の手ごたえとして、どう感じているか。

鳥居室長

千差万別でなかなか言い辛いところであるが、校長先生方をお願いしたいのは廊下から見ていただけではだめだということである。教室の中に入って子どもたちの邪魔にならない様に、子どもたちの会話に耳を傾けながら、先生方を励ましたりももっとこうしたらと助言をしていただける様になるといいなと思っている。先生方も校長が教室に入ることを嫌がるため、なかなか入り辛いという状況もあるが、私はなるべく入る様にしていた。

杉野本委員

先生を見に行っているのではなく、子どもを見に行っている

岡田教育長
各委員

んだということで入ってもらおうとよいと思う。具体的に鳥居室長から校長先生方に伝えられていて、非常に伝わる部分はあると思う。今後に期待したいと思う。

その他はよろしいか。

特になし。

田中課長

第 44 回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会について
(資料 5)

11 月 14 日（日）第 44 回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会が開催された。第 1 部、2 部、3 部とそれぞれ高校生、中学生、小学生に分けて、男子女子で当日の結果を表している。ちなみに地元浜田市からの優勝は、第 2 部の中学 3 年生男子、旭なごみ体操クラブの野津さんである。それから第 3 部の小学生女子、浜田体操クラブの森さんである。第 2 部の中学 3 年生男子で優勝された野津さんであるが、下段の写真にもある様に、市長の祝辞の後の開会式で選手宣誓も行っている。それから第 2 位、第 3 位について、それぞれ表になっている中の網掛けしてあるところがそれぞれ浜田市出身の方々である。

体操競技大会の報告は以上であるが、続いてお配りしているチラシについて、簡単にご案内させていただく。

まず、最初に「STREET PIANO」のチラシをご覧ください、これは 12 月 12 日（日）、石中央文化ホールの正面入って左側のホワイエと言うロビーのような所にピアノを 1 台置いて、1 人 5 分程度で自由に弾いていただくイベントである。以前、9 月 11 日にも開催しており、その時には 40 名の方が来場され、演奏されたのは 27 名であった。代わる代わる 1 人 5 分程度で演奏された。改めて 12 月 12 日に開催する。代わる代わる弾くということで、コロナ対策等も万全にした上で開催する。

それから、もう 2 枚チラシを付けているが、こちらもそれぞれ石中央文化ホールでの音楽のイベントである。「第 4 回いわみ三つ星コンサート 2021」ということで、石中央文化ホールで 12 月 25 日（土）にクリスマスコンサートが行われる。

もう 1 枚のチラシでは、1 月 16 日（日）に開催される「2022 ニューイヤー里がえりクラシックコンサート」ということで、foresta というグループ 9 名のメンバーのうち、浜田市出身の大野隆さんにもご出演いただいて、開催の予定である。それぞ

岡田教育長
各委員
岡田教育長

れ 12 月、1 月に開催されるため、ご都合がよろしければ足を運んでいただければと思う。

以上の点について、ご質問等はあるか。

特になし。

補足であるが、いわみ三つ星コンサートのゲストの藤重さんであるが、浜田の音楽まちづくりを先導していただいている先生である。今、若い方々が UI ターンしていると申し上げたが、本日の午後 7 時 30 分から NHK のラウンドちゅうごくの中で、この話に取り上げられる。是非、委員方にも見ていただければと思う。

濱見室長

令和 3 年度浜田市人権作品コンクール入賞者について(資料 6)

毎年、人権作品展ではポスター、作文、標語について募集をしている。人権に関する理解と認識を深めるとともに、その作品を啓発に活用することを目的に募集をしている。

今年については選考をした結果、表に記載してあるとおりの作品について、最優秀賞、優秀賞をそれぞれ受賞されている。

応募作品数について、中学校のポスターの部については 75 作品の応募があり、増加傾向にある。昨年は 65 作品、一昨年が 22 作品であったが、呼びかけもしているため増えている。作文の部については、小学校と中学校ともに横ばいである。作文の部の小学校で 1 名、学校と名前を伏せている方がおられるが、ご本人やご家族、学校からも要望があり、作品の公開については良いが名前と学校は伏せてほしいということだったので、伏せている。

それぞれ入賞者については、表彰式を行う予定である。本日の定例会の前に案内文書をお渡ししたが、作品コンクールの表彰式を 12 月 17 日に行うため、ご出席をよろしくお願いする。

また、これらの作品については、年末には市役所ロビーにて入賞作品の展示を行う。年が明けて、1 月上旬には世界子ども美術館で入賞作品と応募されたポスター全てを展示する予定である。また、これらの作品を集めて 1 つの資料集を作り、関係機関に 3 月ごろ、配布予定である。人権作品コンクールについては以上である。

続いて、講演会のご案内である。先ほどの行事予定表の中でも記載があったが、11 月 21 日(日)に浜田地域人権・同和教

岡田教育長 宇津委員	育講演会ということで、講師に江嶋修作さんにお越しいただいて、差別する側こそ「恥ずかしい」というタイトルで講演会を開催する。実は応募締め切りが本日までとなっており、委員方からも申し込みいただいているが、ご都合のつく方はこの後私に言っていただければと思う。もう少し席に余裕があるため、お越しいただければと思う。 以上の報告について、ご質問等はあるか。
濱見室長	人権作品コンクールのポスターの部、作文の部で応募のない学校はあるか。 ポスターについては非常に差がある。ポスターと作文の応募もなかった中学校が1校だけある。それから1作品だけあった学校が1校ある。入賞されている学校が非常に重複しているが、非常に多くの作品を出していただいております、逆に市へ応募については20作品までにしてくださいと制限を設けている。例えば金城中学校は20作品を応募しているが、おそらく学校では全生徒が取り組んでいる。第四中学校も2年生と3年生は全員が描かれていると思う。学校によっては、美術部員だけが描くというところ、学年全体で取り組むというところもあり、学校によって温度差や特色がある。 作文については、全ての小中学校から1作品以上の応募はあった。
宇津委員 岡田教育長 各委員	承知した。 その他はよろしいか。 特になし。

4 その他

(1) 教育委員日誌の配布について

日ノ原係長	委員方のお手元に、来月の令和3年12月から令和4年11月までの1年間分12枚をお手元に用意している。毎月、ご提出をよろしくお願いいたします。
岡田教育長 各委員	教育委員日誌の配布についてはよろしいか。 特になし。
(2) その他	
岡田教育長 各課長	事務局からその他何かあるか。 特になし。
岡田教育長	その他のところで、委員方からご報告やご質問があればお願い

杉野本委員	する。 以前、議会から教育委員が学校訪問にもっと出向いたほうがいいという様な話もあって、その辺りを校長会で聞いてみると言われていたが、何か校長会から話があったか。
岡田教育長	まだ校長会に直接話してはいない。改めて、校長会の中でお話させていただきたいと思う。基本的にはオープンであるため、来ていただいて構わないという学校もあるが、教育委員が来られることによってかえって学校の先生方が構えてしまったりとか、そういうことを心配される動きもある。対応は千差万別であると思う。一応、浜田市全体としての考え方でやろうと思うと校長会から改めて意見を聞いたほうがよいと思っている。
各委員	その他はよろしいか。 特になし。

次回定例会日程

定例会 12月20日（月）13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂AB

次々回定例会日程

定例会 1月28日（金）13時30分から 中央図書館2階多目的ホール

14：47 終了